

アンケート実施調査の状況

1. 調査概要

目的地の分布状況や、交通分担率、将来のニーズ等を把握するために、アンケートを行った。アンケートは、市民アンケート、高校生アンケート、大学生アンケート、高校生保護者アンケートを行った。各アンケートの概要は以下のとおりである。

市民 アンケート	目的	市民の移動実態や公共交通への課題・要望の把握
	対象	岡崎市の住民 1,500 世帯 ※対象世帯は住民基本台帳から無作為抽出
	実施方法	配布：郵送 回収：郵送又は WEB ※別途、市 HP や SNS、市職員への広報を実施
	実施時期	2025/10/14（金）～2025/10/31（金）
	回収数	1,863 票（郵送：488 票、WEB：1,375 票）
高校生 アンケート	目的	高校生の移動実態や公共交通への課題・要望の把握
	対象	岡崎市内の高校に通う高校生
	実施方法	配布：WEB アンケートの二次元コードを記載した案内文 回収：WEB
	実施時期	2025/10/23（木）～2025/10/31（金）
	回収数	2,498 票
高校生 保護者 アンケート	目的	高校生の保護者の送迎実態の把握
	対象	岡崎市内の高校に通う高校生の保護者
	実施方法	配布：WEB アンケートの二次元コードを記載した案内文 回収：WEB
	実施時期	2025/10/23（木）～2025/10/31（金）
	回収数	1,174 票
大学生 アンケート	目的	大学生の移動実態や公共交通への課題・要望の把握
	対象	岡崎市内の大学に通う大学生
	実施方法	配布：WEB アンケートの二次元コードを記載した案内文 回収：WEB
	実施時期	2025/11/7（金）～2025/11/30（日）
	回収数	127 票

2. 集計（速報）

回収が終了している、市民アンケート、高校生アンケート、高校生保護者アンケートについて、単純集計を行った速報を示す。今後は主に地域別や年齢別を対象としたクロス集計により分析を進めていく。

2.1. 市民アンケート

■移動の現状

- 73.9%の人が自由に使える自動車を保有（自動車免許は 83.9%保有）しており、平日は 72.5%が、休日は 80.3%が自動車を利用して移動している。
- 平日の主なお出かけ理由は通勤が 63.9%、買い物 23.1%、休日の主なお出かけ理由は、買い物 61.7%、趣味・娯楽が 22.8%となっている。
- 5 分以内にバス停や駅があることを認識している割合は 48.3%である。

■公共交通を利用しない理由

- 鉄道を利用しない人は全体の 12.9%おり、利用しない理由としては、「自分で自動車等を運転できる」の他、「駅が遠い」 や「鉄道を利用するほどの距離へ外出しない」 などの空間的障害があげられた。
- バスを利用しない人は全体の 43.2%おり、利用しない理由としては、「自分で自動車等を運転できる」の他、「乗りたい時間の運行がない」という時間的な障害があげられた。

■公共交通の満足度と将来の利用意向

- 公共交通の総合満足度として、「満足」と「やや満足」の合計は、鉄道が 45.6%、バス、14.3%、タクシーが 11.6%であった。どの交通機関も「どちらでもない」「わからない」の回答が多く、利用促進が必要である。
 - 鉄道の「満足、やや満足」の回答が多かった項目としては、「運行本数」(52.7%)、「運行時間」(48.6%) であり、「やや不満、不満」の多かった項目としては、「運賃」(34.5%) や「駅の利用環境・バリアフリー」(21.6%) であった。
 - バスの「満足、やや満足」の回答が多かった項目としては、「運転手の運転技術・対応の良さ」(31.4%)、「行先までの所要時間」(22.1%) であり、「やや不満、不満」の多かった項目としては、「運行本数」(51.7%) や「運行時間」(40.4%) であった。
 - タクシーの「満足、やや満足」の回答が多かった項目としては、「運転手の運転技術・対応の良さ」(19.5%) であり、「やや不満、不満」の多かった回答としては、「運賃」(37.4%) であった。

-
- 自家用車での移動ができなくなった場合の公共交通手段としては、路線バスが69.0%と最も回答が多かった。次点で、徒歩、鉄道、コミュニティバスがあげられた。

■公共交通の利便性

- 公共交通の利便性は向上するべきと回答した人が37.2%、維持するべきと回答した人が48.7%であり、合計85.9%である。
- 公共交通の維持について、「とてもそう思う」「ややそう思う」の回答が多かった取組は、「市内の主要な拠点（東岡崎駅・岡崎駅など）を結ぶバス路線については、現在の運行本数の維持または増便を図るべき」で67.5%であった。次点で、「公共交通維持の為には運賃の値上げもやむを得ない」が49.2%であり、最も少なかったのが、「利用実態に応じて運行時間の短縮や減便を行い、特に利用のない路線については廃線もやむをえない」の項目で39.1%であった。このことから、運賃の値上げをしてでも公共交通の維持を図るべきであると考えられる。
- 利便性向上の取組として重要なと思うものの中で最も回答が多かったのが「高齢者を対象とした運賃補助や免許返納制度」であり、次点で一定の区間内であればどこまで乗っても運賃が同じとなる均一運賃の導入」であった。

2.2. 高校生アンケート

■移動の現状

- 免許を「必ず取得する」と回答した割合は68.0%免許を必要とする傾向にある。
- 5分以内に駅又はバス停があることを認識している割合は44.9%である。
- 自転車で行ける距離は10kmと回答した人が最も多く、28.1%であった。
- 普段の登校は自転車を利用する人が多く、63.7%であった。次点で鉄道（名鉄）（38.7%）であり、送迎の利用は10.5%であった。
- 休日も自転車の利用が最も多く、61.9%であった。次点の鉄道（名鉄）も36.6%と登下校と変わらないが、送迎は、46.0%であり、平日と比べて大きく増加した。

■送迎について

- 送迎で通学する理由としては、「公共交通よりも送迎のほうが早いため」という理由が最も多く（38.4%）、次点で、「公共交通が自宅の徒歩圏内にないため」という理由が多かった（22.6%）。
- 大半が、送迎により親に負担をかけていると認識しており、「負担をかけていると思う」「やや思う」を合わせると、87.2%であった。

■公共交通を利用しない理由

- 鉄道を利用しないと回答した割合は、全体の 7.8%であり、利用しない理由としては、「家族等が自動車で送迎してくれるから」が最も多く（38.7%）、次点で「鉄道を利用するほどの距離へ外出しない」（27.6%）、「駅が遠い」（25.5%）であった。
- バスを利用しないと回答した割合は全体の 34.7%であり、利用しない理由としては、「家族等が自動車で送迎してくれるから」が最も多く（34.8%）、次点で、「バスを利用するほどの距離へ外出しない」が多い（26.8%）。

■将来の公共交通の利用意向

- 今後公共交通を利用したいかに対して、「利用したい」もしくは「できれば利用したい」と回答した割合が 77.1%であった。
- 今後の利便性向上のために重要なと思うものは「学生を対象とした定期券購入補助制度」が最も多く（48.8%）、次点で、「新たな決済システムの導入（QRコード、クレジットカードのタッチ決済など）」であり（47.1%）、三番目に「駅・バス停に駐輪場を整備」があがった（38.7%）。

2.3. 高校生保護者アンケート

■送迎について

- 日常的な送迎をしている割合は 16.1%であり、そのうち最寄りの駅への送迎が 63.5%と多くを占めた。
- 一回の送迎にかかる時間としては 10 分以内が 41.3%であり、次点の 15 分程度が 33.3%、30 分程度が 18.5%と 30 分以内が 9 割を占めた。
- 送迎はほぼ毎日すると回答した人が最も多く（61.4%）、特別な条件としては、雨天時の回答が最も多かった（86.2%）。
- 送迎する理由としては、「公共交通が利用したい時間にないため（25.9%）」、「公共交通が自宅の徒歩圏内にないため（23.8%）」といった、時間や空間的課題の他、「公共交通より精神的・身体的に安心なため（22.2%）」といった心理的面での課題も見られた。
- 送迎について「負担である」「やや負担である」と回答した人は合わせて 66.1%と半数以上を占めた。